

共に生きる

東日本大震災現地支援ニュース No.21
2014年2月26日 大会執事活動委員会

東日本大震災からもうすぐ3年の時が経とうとしていますが、現地での働きは今も尚様々な形で継続されています。引き続き心を合せて祈り、支えて行きたいと願っていますが、今回はまず名古屋岩の上传道所の被災地ディアコニアの一環として行われています、福島でのお働きのご報告をお届けいたします。

*名古屋岩の上传道所 ディアコニア支援活動報告

岡本真理

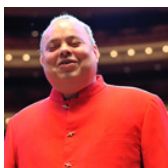


名古屋岩の上传道所では、年に3～4回の被災地への訪問を継続し、次回で12回目の被災地ディアコニアとなります。震災後から宮城県亘理郡亘理町や山元町の方々とは、顔を合わせる回数を重ね、文通などもしながら関係を築いて来ました。また、のぞみセンターにもご協力をいただいたり、お手伝いをしたりしつつ、そのような形でこれからも山元町や亘理町の方々の関係を大切にして行きたいと願っています。

2013年の夏の訪問からは、日本同盟キリスト教団の後藤一子牧師のお働きの手伝いを活動に加えています。後藤先生はご自身も被災されながら震災直後から支援活動をはじめられ、複数の仮設住宅を歩き来して奉仕をされています。わたしたちは相馬市・南相馬市の仮設住宅に同行させていただき、集会室でのカフェや愛知県立芸術大学声楽科学生のコンサート、押し花カードの制作など、また包丁研ぎやミネラルウォーターの各戸への配布などを行っています。南相馬市では、原発の被害から逃れて来た方のための仮設住宅を訪問しましたが、これまで亘理郡で訪問してきたどの仮設住宅とも異なる、「長期間の居住を目的とした仮設住宅」となっていました。建物の造りも異なりましたが、住んでいらっしゃる方々、支援されている方々の様子からも他の被災地とは違った、原発問題の重圧、閉塞感やあきらめなどをひしひしと感じさせられました。また奉仕者の方にも、これまでと違った緊張感があつたように思います。今もなお、ミネラルウォーターという物資支援を喜んでいただけることにも驚きがありました。行って初めて、福島の方々の現状を知ることができましたが、いかに知らなかったかということも教えられました。また、仮設住宅を訪問するボランティアも、相馬市や南相馬市は格段に少ない印象でした。集会場でのカフェに少しの時間でも来てくださり、楽しい気分になっていただけたらと願い、奉仕をささげています。



中部中会では信徒研修会の際、報告とアピールの時間を与えてくださり、2011年は手編みの防寒具のプレゼント、2012年はエコバッグ、2013年は手作りのクリスマスリースと、たくさんの教会のご協力により仮設住宅の方々へ数多くの温かいプレゼントを届けることができました。また岩の上传道所では姉妹方がたくさんのお菓子を用意してくださったり、様々な形で奉仕がささげられています。現地を訪問できる奉仕者は限られますが、何よりも兄弟姉妹のお祈り、奉仕と献金とで、このディアコニアが支えられていることを主に感謝いたします。これからも被災地の方々のために用いられるように、お祈りいただけたら幸いです。



(祝福をお祈りください)
新垣勉 希望のこぼコンサート
2014年3月8日(土)14:00～
仙台市若林区文化センター(無料)





凍った田畑に青空が映えるここ山元。他所から来た私でさえもしみじみ良い所だなあーと思うのだから、ましてやこの町で汽笛を聞きながら下駄や草履で学校へ通い、しもやけた赤い頬で笑いながら厳しい時代を生き抜いて来られたご年配の方たちにとっては、ここ以外に「帰りたい場所」は存在しない。国道6号沿いのコンクリート色の目立つ大規模な工事現場を少しわきに逸れると、イチゴハウスが立ち並んだ風景をバックに小学生たちがいつまでも「バイバイ」と互いに手を振り合っている下校姿を見ることが出来る。心に大きな傷とトラウマを抱えた子どもたちの

胸の内を想うだけで頬に熱いものが込み上げてくるが、こうした光景を目にする度少しホッと慰められる。ちょうどその頃センターでも、ただいまー！と威勢の良い声が響きおかえりー！と迎え入れると、安心しきったくしゃくしゃの顔で子どもたちが体当たりのハグをくれる。入ってくるやいなや夢中で、学校であった出来ごと、習いたての歌や漢字、手に入れたての人気カードについて語ってくれる子もいる。ときどき一人一人の子が初めてセンターを訪れたときのことを思い出してみると彼らの成長ぶりに改めて驚かされる。もももどと恥ずかしそうにドアから中々入って来なかった子や、ママの後ろに隠れて顔だけ出してこちらを眺めていた子も今では、他のお友だちを誘って遊びに来てくれるし、率先して靴を並べ、手を洗い、お友だちの分の名前もノートに書いてあげている。もしかしたらこの「ただいまー！」の瞬間を一番楽しみにしていたのは私かも知れないと思うと何だか少し照れくさいが、「また明日ねー！愛してるよー！」と帰りがけに声をかけると「うん！キモッ!!うん、明日ねー！雪合戦またすっからねー！明日はぜってえー負けねえからー!!」と帰っていく彼らがとにかく愛おしくてたまらない。センターが担わされている働きは多くあるようで本当はシンプルなのかも知れないと茜色の空を見上げながら思う。共に生かされ、生きる。今年はいよいよ一層、主の美しい語りかけの中過ごす一年となりそうで楽しみだ。

大きく変わりつつあるのは町並みだけではない。地元の方が自ら「センターでボランティアしたい。何でもできることは手伝いたいから声をかけてね！」と申し出て下さったり、月1度の聖書を学ぶ会にご近所から20名を超える参加者が集い始めたこと。仮設住宅から移られる方が増えると同時に生まれる生活再建のスピードの格差。差別的な皮肉や、人間関係のこじれが多々耳に入るようになった。消費税が上がり、ガレキのお仕事が減り、更に生活が大変になる地元の方々の心に浮かぶのは、記憶に鮮明に残るご家族、家、大切にしていた人やもの、ペット…そしてあの日の生々しい恐怖。自分だけが残ってしまった…息子さんを亡くされた女性は、代わってやりたかった…と悔しげな表情で自責の念に心を痛めておられる。溺れながらも奇跡的に助かったお孫さんを耳鼻科へ連れて行った際、耳から大量に他の子どもの髪の毛が出てきて泣き叫ぶその子を、抱きしめ共に涙した方もいる。今でもあの日流された方の声が耳に焼き付いて昼も夜もうなされるため、家中に目隠しシートを貼って引きこもっておられる方は、「3年経って、色んな記憶が戻って来て怖い。でもやっと話せるようになった…」と涙をためながら告白される。電気、水、ガスには苦労しない生活が戻りつつあり、町の構造計画は次々と練られていくけれど、心の回復には主の癒しが必要だと感じる。だからこそ、なお御力に寄り頼み、できることをできる範囲で忠実に続けさせて頂こうと決心を新たに2月から本格的に活動を再開したのぞみセンターを、皆さまどうぞこれからもよろしくお願いたします。

なお、具体的な活動内容についてはホームページ：www.nozomicenter.com をご覧ください。

山元町、相馬支援の奉仕者募集や行事紹介も随時行っております♪

主の恵みと慈しみが、愛する皆さまの上にも豊かに注がれますように♡

1月27日訪問：オレンジポマンダ作り

ポマンダとは「香り玉」又は、「匂い玉」です。果物のオレンジをベースに高貴な香りのするクローブをオレンジに埋め込んでゆく作業です。クローブは「T」の字をした小さな花のつぼみを乾燥させたものです。オレンジに竹櫛で、穴を開け、そのクローブを埋め込んで行きます。1個のオレンジに役200粒ほどのクローブを埋め込んで行きます。クローブを埋め込んだオレンジをスパイスパウダーにまぶして乾燥させて出来上がりです。

1. 中学校仮設でのオレンジポマンダ作り

仮設からの参加者は村上勝也会長さん、佐々木澄子さん、村上静江さん、平野マサ子さん、菊池まさ子さんの5名でした。私たちスタッフ7名で、合計12名が福井松枝さんからご指導をいただき、オレンジポマンダ作りに熱中いたしました。1個のオレンジに竹櫛で穴を開け、200粒ほどのクローブを埋める作業です。全員作業が終わりました。

2. 小学校仮設

中山チヨ子さん、村上創子さん、佐々木洋子さん、村上セイ子さん、鈴木信子さん河野敏枝さん、鈴木マサ子さん、の7名がオレンジポマンダ作りをしました。途中、小林前区長さんが加わり、計8名の参加者でした。小林さんは家を新築し、この仮設から引っ越しました。引っ越し先から今日、私たちに会うためにこの会場にいらしてくださいました。村上文一会長さん、村上区長さんは不在で、今日私たちに対応してくださったのは河野敏江さんでした。

3. 片地家仮設—参加者6名

熊谷薫会長さん、永田牧子さん、荒木三枝子さん、菅野寿さん、菅野星華さん、菅野洗寿君、の6名が今日のイベントに参加しました。クローブの香り、シナモンなどのスパイスパウダーによって、集会場が香り豊かになりました。キリストの香りをこの交わりの中で放つことが出来るように、これからも頑張って参りたいと思います。



昨年の12月26日から28日にかけて、宮城県の青根温泉にて子どもたちのキャンプを開催いたしました。38名の子どもたちが参加してくれました。今回初めて参加してくれた子どももいました。雪山で行った雪合戦は、ベニヤ板などを持ち込んで城や壁を作って少し本格的な雪合戦となり、大いに盛り上がりました。嬉しかったことは、讚美とお祈りと聖書のメッセージを中心とした「夕べの集い」の時間を子どもたちが楽しみにしてくれるようになったことです。

今年の2月11日にはサクラハウスで「ラーメン&餅つき大会」を行いました。野蒜小学校の子どもたちはもちろんの事、ひびき工業団地仮設住宅の方の送迎も行い、総勢120名の参加となりました。また、2月24日には野蒜小学校の振り替え休日を利用して、46名の子どもたちとスケートに行きました。子どもたちはとても楽しみにしてくれて、前日興奮して眠れなかった子もいたようです。オリンピックの影響を受けてリレーをしたり、トリプルアクセル(?)に挑戦したり、楽しい一日となりました。



最近の動きとして、野蒜小学校を卒業し仙台のミッションスクールに進学した子どもが時々家族そろって礼拝に来てくれるようになりました。また、お孫さんや親戚の方が野蒜に住んでいるということで、「お世話になっています」と言って礼拝に来てくださる方もいます。続けて礼拝に出席できますように、どうぞお祈りください。

<祈りの課題>

- ・現在スタッフは私と熊田真介兄とラウウ憲子姉の3名となりました。砂田裕基兄は12月末でスタッフは辞めましたが、自分で仕事をしながら週2回、活動に参加してくれています。スタッフの健康と毎日の生活が支えられますようにお祈りください。
- ・今年の7月からサクラハウスのリフォーム工事を開始する予定です。また、サクラハウスを使って熊田兄がラーメンのお店を開店するという計画も進行中です。活動の継続の為に主の御心にかなう道が開かれ、すべての必要が満たされますように、お祈りください。

<今月の御言葉>

「こういうわけで、わたしたちもまた、このようにおびたしい証人の群れに囲まれている以上、すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競争を忍耐強く走り抜こうではありませんか。信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。このイエスは、御自分の前にある喜びを捨て、恥をもいとわないで十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右にお座りになったのです。」ヘブライ人への手紙12章1~2節。

ヘブライ人への手紙は、私たちの信仰生活が競争を忍耐強く走り抜けるものであることを教えています。忍耐というからには、そこには信仰の試練や困難があります。試練や困難ということ、私たちは好みません。むしろ、できるならば避けたい、こう願いたくなるものなのだと思います。

ただ、この忍耐を必要とする歩みは、偶然一人一人に与えられるものではないのです。むしろ、それは「自分に定められている」歩みであると言われています。神様によって一人一人に定められているものだ、というのです。そして、その中で神様は、信仰の試練を忍耐をもって歩む私たちに、信仰の創始者であり完成者である主イエスを仰ぎ見させてくださるというのです。

私たちの信仰の中心は、一人一人が、それぞれの場所で主イエスを見つめ続けることにあります。それは、試練や困難のある中で、決してこの方から目を離さずに、この方にしがみつこうような歩みです。

主イエス・キリストというお方は、本当に私たちのために生きてくださったお方です。御自分の一切の喜びを捨て、十字架の死を耐え忍び、神と人とのために生きてくださいました。苦難から栄光に至る歩みを歩んでくださったのです。

私たちの歩みも、たとえ苦難の中であっても、主イエスを確認に見つめることが許されるならば、それも栄光に至るものです。被災地と共にその歩みをすることを願っています。

奈良伝道所 宮崎契一